

イネいもち病（葉いもち）情報第1号

令和6年6月17日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

複数の地域でいもち病感染好適日が示されています ほ場における発生状況に注意しましょう

イネいもち病発生予察用シミュレーションプログラム（BLASTAM）を用い判定したところ、6月1日に伊良湖で、6月10日には南知多、岡崎、伊良湖、豊橋でいもち病感染好適日が示されました（表）。

また、名古屋地方気象台6月13日発表の1か月予報によると、平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。そのため、今後もイネいもち病感染好適日がさらに発生する可能性があります。本田を見回り、初発生を確認したら適切に防除しましょう。

なお、補植用苗はいもち病の伝染源となるので、早めに除去しましょう。

表 BLASTAMによるいもち病（葉いもち）感染好適日の判定結果（6月1日～6月16日）

日付	尾張				西三河		東三河			中山間	
	愛西	名古屋	大府	南知多	豊田	岡崎	蒲郡	伊良湖	豊橋	新城	稲武
6/1	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	④
6/2	-	1	4	3	-	-	-	-	-	-	-
6/3	-	-	-	-	-	7	-	-	-	6	1
6/4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	③
6/6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/7	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/9	5	4	3	-	4	3	6	-	5	5	3
6/10	7	④	3	●	9	●	④	●	●	6	3
6/11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/16	④	4	④	9	2	8	-	-	④	9	2

●：好適条件（湿潤時間が長く気温も適当で、いもち病発生の好適条件が現れた）

④：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤時間中の平均気温が比較的低温、その平均気温に必要な湿潤時間より短い）

③：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤時間中の平均気温が15℃～25℃の範囲外）

②：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が25℃以上）

①：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が20℃未満）

数値：湿潤時間が10時間未満の場合の湿潤時間数

-：好適条件なし（いもち病発生の好適条件が現れなかった）

【参考】イネいもち病（葉いもち）の感染好適条件とBLASTAMについて

1 イネいもち病（葉いもち）の感染好適条件

本病原菌は水分や温度などの条件が整うと、被害稲わら等で菌の胞子を形成し、風雨で飛散します。胞子がイネ葉上に付着すると、感染好適条件が整った日から7日前後で病斑が形成されます。

小雨で雨が弱く、葉面の濡れ時間が長いと感染しやすくなります。

2 BLASTAMによる葉いもち感染好適日の判定結果（表）について

(1) BLASTAMについて

BLASTAM（イネいもち病発生予察用シミュレーションプログラム）は、気象庁のアメダスデータを用いて、葉面の湿潤時間を計算し、いもち病（葉いもち）の感染しやすい条件を推定するシステムです。

(2) 表の記号について（下図を参照）

●：最も感染に好適な条件になった日（葉面の湿潤時間が長く、適温が続く）

①～④：●に近い条件（準好適条件）になった日

（①～④は条件を区分した番号であり、感染しやすい順番ではない）

<参考記載>

1～9：葉面の湿潤時間が10時間未満の場合の湿潤時間数

(3) 感染好適条件と発病

感染好適日から7日前後で葉いもちの初発生の可能性があります。また、感染好適日が連続するときは、多発条件となるため注意が必要です。

なお、感染好適日が生じてても、イネの品種、肥培管理、防除等によっては発病に至らない場合もあります。

したがって、この情報を参考にしながら、ほ場の状況を確認し、発病を認めたら速やかに防除を徹底することが大切です。

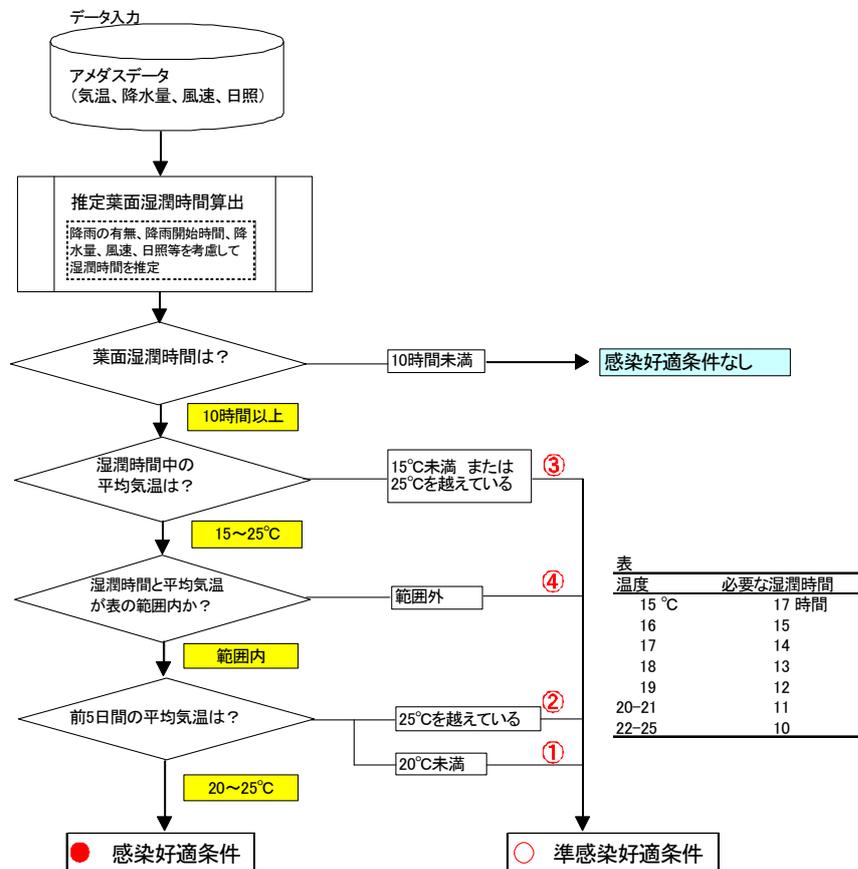


図 BLASTAMによるいもち病（葉いもち）感染好適日判定の流れ